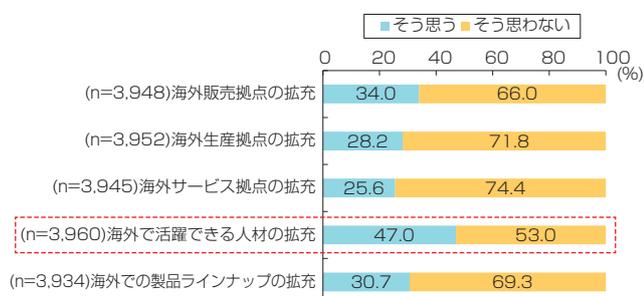


さらには、多くの企業において、付加価値の高いビジネスモデルの考案や製造から販売まで一貫して企画・提案できる人材が不足しているのが実態である（図132-6）。

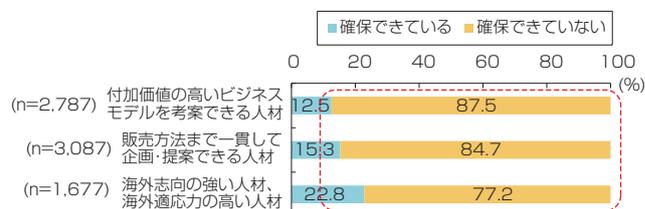
企業戦略の多様化・グローバル化（M & A、海外展開等）が進展していく中で、高度な経営判断や管理能力を有したマネジメント人材が求められている。

図132-5 海外進出する際の課題



資料：経済産業省調べ(14年1月)

図132-6 高度人材の確保



資料：経済産業省調べ(14年1月)

## (2) 少子高齢化に直面する中での女性、高齢者全員参加のものづくり

第1節で述べたとおり、直近2013年の人口推計では、32年ぶりに生産年齢人口が8,000万人を割り込み、また老年人口（65歳以上）が全人口に占める比率が初めて25%を超えるなど少子高齢化は着実に進行している。今後も生産年齢人口の減少が見込まれる中、我が国のものづくりに携わる人材を確保する上で、女性や高齢者の参加が重要である。

### ① 女性の参加を促す環境作り

女性の就業状況を見ると、全産業の女性比率が4割を超える中で、製造業は3割程度に留まる（出典：ILO LABORSTA 及び ILO STAT）上に、1990年代初めをピークに減少傾向にある（出典：総務省「労働力調

査」）。

生産年齢人口が減少する中で、ものづくり産業における女性の参画を促すことは重要である。女性の活躍を妨げる要因として、家事や育児・介護の負担があげられており、まずは、ワークライフバランスを重視した取組を行うなど女性が働きやすい環境を整備することが必要である。さらには、男女ともに使いやすい器具・設備などの導入により、女性がいわゆるものづくり現場に携わることが以前と比して容易となりつつある中で、製造現場での女性の役割を見直すとともに、研究開発や営業など製造以外の現場においても、個々の適性に合った役割作りが必要である。

また、イノベーションを起こす、多様性の中でガバナンスを効かせるといった企業価値の向上に繋がる女性ならではの職域、領域を発掘していくことも期待される。

## コラム IT化・標準化の工夫により専門知識を有しない女性従業員が活躍できる職場を確立

（株）井口一世（東京都千代田区）は、OA機器等の主要部品の精密板金加工を手がけており、IT化・標準化した生産システムを確立することにより、専門知識を有しない従業員でもすぐに加工機械を操作し、高精度・高品質の製品ができるような生産スタイルを採っている。例えば、熟練技術者の持つ暗黙知を顕在化させるとともに、これまでの加工技術の蓄積から、材料物性・加工特性・加工機械特性などのデータベースを構築した。これにより、レーザー、パンチ、ベンディングといった加工機械の性能を最大限に引き出し、専門知識を有しない従業員でも直ぐに加工機械を操作することが可能となった。

男女における年収格差はなく、公正かつ公平な業務評価を行っており、女性もキャリアアップできる環境がある。社長の井口氏は「最新鋭の工作機械を操るが、知識

図 製造現場で働く女性社員



がない人間の方が余計な知識が邪魔にならず人材として伸びやすい」と語る。実際に、会社全体の7割が女性、製造現場でも、文系出身の女性社員が多く活躍している。また、素人の社員のひらめきと、ものづくりで広い知識を持つベテランの経験者との多様な人材の能力の組み合わせもよりよい製品にしていくために役立っている。

生産システムや公正・公平な評価を実施した結果、同社には優秀な女性社員が多く働くようになり、彼女たちがより働きやすい環境作りにも力を入れている。



## コラム 女性の働きやすさは会社の将来性を測るバロメータ (株)南武

特殊油圧シリンダーの設計・製造を手がけ、製鉄用ロータリージョイントでは世界シェア3割を誇り、グローバルニッチトップ企業100選にも選定された(株)南武(東京都大田区)は、1998年に製造現場の技術職として初めて高卒の女性を採用し、以降、リーマンショックなどの非常時を除き、継続的に女性を採用してきた。現在、事務職を含めた女性社員の数は従業員の約4分の1に相当し、NC旋盤やマシニングセンターを巧みに操作する女性社員は“ドリルガールズ”と呼ばれ、同社の重要な戦力となっている。

同社が現場に女性を採用するようになったきっかけは、地元女子高から就職の面接に来た生徒に工場を見せた際、人手不足もあって現場に興味がないかどうかと尋ねたところ、「是非やってみたい」と関心を示してくれたこと。当初、ベテランもいる現場は若い素人の女性の採用に戸惑いを隠せなかったというが、女性は男性に比べて持続性があり、こつこつと正確に仕事を行うため失敗が少なく、今ではNC旋盤などの機械操作はむしろ女性に向いているのではないかと感じているという。

女性が製造現場で働くようになり、男性社会であったものづくりの現場が明るく清潔になったという。女性は5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に率先して取り組み、工具の取扱いも丁寧でソツがなく、コミュニケーション能力も高い。男性社員の意識も大きく変わり、職場での言葉使いも穏やかになり、服装も清潔になった。

また、同社では、結婚後も女性が働き続けることができる職場づくりに腐心している。技能や技術を継承するためにも、若い人達がものづくりの現場に入ってきてもらう必要がある。女性が働きやすい会社とは、すなわち若者が働きやすい会社であり、女性が活躍できる職場をつくるのが技能や技術の継承につながっていくと考えている。



写真：女性社員(“ドリルガールズ”)が作業する様子